



20 石田益敏

《狙撃之図》

一面

明治二十八年(一八九五)

油彩、カンヴァス

一三五・〇×八九・六

東京府 第二部第十八類

第四回内国博と同じ年に開催された明治美術会第七回展には、日清戦争を主題とする作品が多数出品された。絵画は何を描くべきなのが論争となった明治二十年代、同時代の戦争は画家にとつてまさに描かなければならない出来事であった。特に洋画家は、西洋の画家がその国の歴史的事象として同時代の戦争を描き残していることに、大きな影響を受けていた。本作には銃撃戦に参加する二人の日本兵が描かれている。背景には説明的な描写はほとんどなく、土山に銃を構えて発砲する兵士と、そのそばで片膝をたてて様子を見守る兵士が画面の中心を占める。しかし、その兵士も表情など細部の描写はなされておらず、明治前期の洋画にみられるような強い迫真性や、わかりやすい物語性は存在しない。さまざまなタッチを重ねる茶系の部分の描き方に、教えを受けた浅井忠の影響を顕著にみることができる。第四回内国博には、出品目録によると《油絵 人物》と題して出品されたようである。

石田益敏(一八七三〜一九三六)は静岡県に生まれ、曾山幸彦に絵を学び、明治二十五年に開設された明治美術会教場(のちの明治美術学校)に入った。明治美術学校卒業後、浅井忠に師事し、三十一年に東京美術学校西洋画科撰科に入学、卒業後は千葉県や茨城県で図画教師をつとめた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections